

られず, EBER 1 も陰性である。

#### 参考文献

- 1) 河 敬世: EBV 感染症—最近の知見. 臨床科学 1994, **30**: 959-966
- 2) Su, I-J., Chen, R-G., Lin, D-T. et al.: Epstein-Barr virus (EBV) infects T lymphocytes in childhood EBV-associated hemophagocytic syndrome in Taiwan. Am J Pathol 1994, **144**: 1219-1255
- 3) 「新しい Epstein-Barr ウイルス関連腫瘍」. 医学のあゆみ 1995, 174(3)
- 4) 「Epstein-Barr ウイルスとリンパ腫」. 病理と臨床 1995, **13**(8)
- 5) 「胃癌と Epstein-Barr ウイルス」. 医学のあゆみ 1996, **176**(2)

- 6) 「NK 細胞性リンパ腫」. 医学のあゆみ 1997, **181**(11)
- 7) Tsutsumi, Y., Tang, X., Yamada, T.: Epstein-Barr virus (EBV)-induced CD30<sup>+</sup> natural killer cell-type malignancy resembling malignant histiocytosis: Malignant transformation in chronic active EBV infection associating hypogammaglobulinemia. Pathol Int 1997, **47**: 384-392
- 8) Vilor, M., Tsutsumi, Y.: Localization of Epstein-Barr virus genome in lymphoid cells in poorly differentiated adenocarcinoma with lymphoid stroma of the colon. Pathol Int 1995, **45**: 695-697
- 9) 田中昭男(訳): 毛状白板症. 臨床口腔病理診断学 (Regezi, J. A., Sciubba, J. J. 編), 医歯薬出版, 東京, 1994, 109-111
- 10) 野中薫雄: 種痘様水疱症(hydroa vacciniforme). 皮膚病診療 1999, **21**: 55-58

#### ■ トーマス・ホジキンが解剖したホジキン病の標本

1997年9月, ロンドンにある Guys Hospital 医学部に附属する Gordon Museum を訪れる機会があった。すばらしい病理博物館だ。展示品のうち何ととっても圧巻なのは, 19世紀初頭の Guys 病院の内科三羽ガラスといわれた, トーマス・ホジキン, トーマス・アジソン, リチャード・ブライトの解剖した3例ずつのホルマリン固定標本だった。言うまでもなく, 臓器はそれぞれ, リンパ節・脾, 副腎, そして腎臓である。約180年前の代物である。ホルマリンが固定液として初めて使われたのは1893年。ホジキンの時代, 臓器はアルコールに固定した。まだ顕微鏡は実用されず, すべて肉眼解剖であった。病理解剖は当時, 最も重要な疾病の研究手段であった。つまり, これら3氏は内科医兼病理医であったといえよう。ホジキンが初代博物館長に就任したのは1826年のことだった。

広島大学の難波紘二博士がホジキン医師の解剖した標本に Leu M1 (CD 15) を染色し, 陽性所見を得ていたことを知っていた私は, おそろおそろガラス標本をいただけないだろうか和館員に申し出てみた。答えはすんなり, 5種類の標本を1枚ずつ頂戴した。この宝物に対してとりあえず HE 染色を施した。さすがに染色性が悪いし, 死後変化も強い。その後, 滴を持して標本のシランスライドへの転写と分割を行い, CD 15のみならず, EBER 1 の染色をしてくれたのは東海大学医学部附属病院病理診断科の川井健司氏。結果はともにみごと陽性。歴史的意義のある肝臓病変における

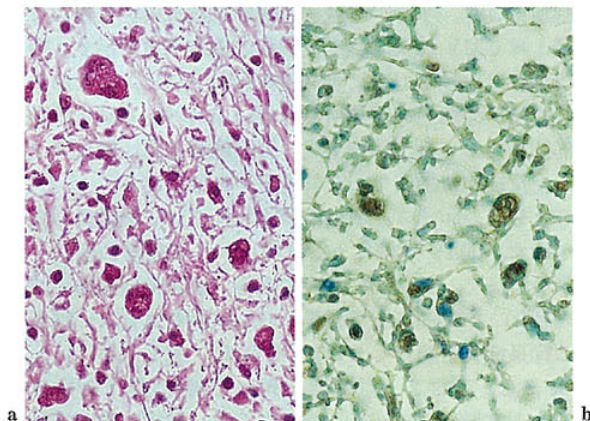


図 17 若きトーマス・ホジキン(1797~1866)が自ら剖検したのち, 数十年間アルコール, そしてその後百年近くホルマリンに保存されていた肝臓の標本(a: HE 染色, b: EBER 1 に対する *in situ* hybridization 法) 肝臓の門脈域に浸潤するホジキン細胞に一致して EBV ゲノムがみごとに証明されている(未染標本の供与はロンドン, Guys 病院医学部 Gordon Museum, J. J. Daws 氏のご厚意による)。

EBER 1 陽性所見を図 17 に示す。ぜひ, じっくりとごらんいただきたい。

#### 参考文献

- 1) 難波紘二: トーマス・ホジキンの標本のたどった道. ミクロスコピア 1991, **8**: 150-158